

就農促進の優良事例

愛知県西尾市における就農促進の取組

1 地域の概要

西尾市（旧西尾市・一色町・吉良町・幡豆町）は、愛知県西三河地方の南部に位置する平地農業地域である。年間を通じて比較的温暖で、降水量は夏に多く、冬に少ない太平洋岸式気候である。



2 取組の契機

西尾市でのいちごの生産量は、愛知県内でトップクラスであるが、近年、農家の高齢化や作付面積の減少により、将来のシェア縮小が懸念されていた。

このため、H28年度にJA西三河・同いちご部会部会長が主導し、JA西三河・同いちご部会、市、県、JAあいち経済連が連携したJA西三河いちご産地振興委員会を組織した。



いちごスクール募集チラシ

R元年度から、いちご新規就農支援プロジェクト「いちごスクール」を開校して、新規就農希望者の募集、就農相談・面談から長期研修、新規就農、就農後の定着サポートまで、きめ細かな伴走支援を実施している。

3 過去の新規就農の実績

いちごスクールでの研修及び新規就農の実績は、次のとおり。

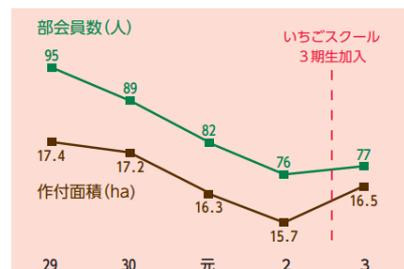
R2～R4年度の新規就農者11人のうち4人が女性。

※ 新規就農年度で整理（研修は新規就農年度の前年度に実施）。

	R2年度 (1期生)	R3年度 (2期生)	R4年度 (3期生)
研修者数	4	3	4
新規就農者数	4	3	4
市内出身者	3	2	3
県内(市外)出身者	0	0	1
県外出身者	1	1	0

いちごスクールからの新規就農者の定着率は100%で、2期生が就農したR3年度から部会員数・作付面積が増加し、部会員の平均年齢も低下している。

部会員数と作付面積の推移



部会員の平均年齢



4 就農促進の体制整備

JA 西三河いちご産地振興委員会では、月 1 回以上、スクール専門会議、受入農家会議を開催し、新規就農希望者の受入・研修等について情報共有・検討をしている。

支援体制について、各組織の役割分担は以下のとおり。

- ①募集、就農相談・面談（JA、県農起業支援ステーション（農大）、市農水振興課）
- ②研修受入（JA いちご部会、JA）
- ③住居の相談・斡旋（市建築課、JA）
- ④農地・空き施設の確保支援（JA、市農業委員会）
- ⑤国県の助成、農業施設・機械の導入支援（市農水振興課、県農政課、JA）
- ⑥農業制度資金の相談・支援（JA、県普及課）
- ⑦青年等就農計画の作成支援（市農水振興課、県普及課）
- ⑧農作物技術・経営指導（JA いちご部会、JA、県普及課）
- ⑨販路の相談・支援（JA）

5 受入から就農までの流れ

（1）全体の流れ

新規就農者の無収入期間を短くするため、研修期間は 1 年間とし、新規就農後は、JA いちご部会員・JA 等により継続的なサポートを実施している。

また、研修と並行し、就農準備として、農地の確保、補助事業等を活用した施設の整備、青年等就農計画の認定などを進めるため、研修申込み時に、就農意思が明確かどうかの確認を行っている。

【全体のスケジュール（例）】

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
研修	研修生募集 4～7 月、9～12 月 研修生面談・決定	研修開始 6 月～	研修終了 ～5 月
就農準備 ・ 就農	就農意思確認	農地・空き施設の調整開始 6 月～ 県・市の予算措置 補助事業等要望 夏～秋頃 1～3 月 青年等就農計画認定 3 月	新規就農 6 月 利用権設定 5 月～ 施設整備等 6 月～

（2）研修生の募集・受入、就農関係情報の公開

①募集、就農相談・面談

JA 西三河の HP や YouTube チャンネル、民間就職情報サイト、市・JA 広報誌等により就農関係情報を発信し、研修生を募集（西尾市のいちご・スクール生が TV 番組で紹介されたことでも、問合せが増加）。

JA において就農相談、特に面談を重視し、西尾市いちご新規就農ガイドブックにより、現実のいちご栽培と労働時間、必要となる施設・機械、農業所得等について説明

し、個々の就農の意向を詳細に確認。



「いちごスクール」紹介動画



「すごいぜ、西尾の農業。」



※ JA 西三河の YouTube チャンネルでは、いちごスクールからの新規就農者や研修受入農家のインタビュー、作業風景など、就農がイメージしやすいような動画を掲載している。

②研修生の決定

JA 西三河いちご産地振興委員会及び関係機関による書類審査・面接により決定。

(3) 技術習得支援・就農準備支援

③長期研修の実施 (いちごスクール)

6月から翌年5月まで、JA 西三河いちご部会の農家の施設ほ場での実習・研修会等を実施。

受講料は無料。



農家での研修の様子

項目	研修内容
基礎研修	生理生態・品種特性等、肥料・農薬、施設設備等、栽培の知識
実務研修	受入農家にて栽培技術、収穫・パック詰め等の出荷調製
経営管理	施設投資、税務申告等の経営に必要な基礎知識
就農準備	農地取得・資金調達等の就農に必要な知識・手続き
視察・交流	JA 西三河いちご部会部会員との交流

※ 基礎研修は、愛知県立農業大学校のニューファーマーズ研修を受講。

④就農準備への支援

JA が、研修開始時に新規就農希望者から、新規施設建設か空き施設活用の希望を聞き、JA が情報網を活用して、所有者との農地等の交渉を実施。

市及び県普及課が、研修中に青年等就農計画の作成を支援し、認定を受けることにより、研修終了と同時に新規就農し、国県の助成、農地の利用権設定が可能となる。



いちごスクール3期生

(4) 新規就農者の定着促進

⑤部会の定着サポート

新規就農者は、西尾市内で経営開始し、JA 西三河いちご部会に加入。
部会員・JA 等が継続的なサポートを実施。同部会は平均単収が約 6t/10a と高く、部会内での交流・ICT 研究会等により栽培技術を研鑽。

県内トップクラスの生産量・出荷額を誇る同部会に加入することで、安定した出荷が期待できる。

6 品種、経営モデル、栽培技術等

(1) 品種

JA 西三河いちご部会では、「章姫」と「紅ほっぺ」を出荷しており、「章姫」は高設栽培、「紅ほっぺ」は土耕栽培が主に行われている。



(2) 経営モデル

西尾市において、いちご栽培で生活が成り立つことを示すため、JA 西三河の HP、西尾市いちご新規就農ガイドブックで、年間の栽培スケジュール、労働時間、経営モデル（売上、経費、施設・機械の減価償却費、農業所得）を公開している。

(3) 栽培技術等

- ①高設栽培初心者でもマニュアルにより安心して栽培できる愛知式簡易高設栽培「ゆりかごシステム」を導入。
- ②温度、湿度、CO₂施用等を最適に管理する複合環境制御システムを導入。
- ③農薬（殺虫剤）の使用を抑制するため、天敵（ハダニを捕食するチリカブリダニ等）を利用した防除、受粉作業の省力化のため、ミツバチ・マルハナバチを導入。
- ④国のスマート農業技術の開発・実証プロジェクトを活用して、出荷情報を配送計画に活用し、物流コストの低減、農家所得の向上のための取組を実施。



ゆりかごシステム、マルハナバチ

7 その他

- ①市から産地 PR 費用が一部補助。
- ②JA 西三河いちご部会の研修受入農家は、市及び部会から少額の謝礼が支出されているのみで、ボランティア的に対応。
- ③JA 西三河と市等が連携し、新規就農者を確保・育成するため、いちじくスクール、にしお農業塾（露地野菜）を運営。